

一緒にやろう！ 「ファーレ・アッシエーメくらしき」 が生まれます

「ファーレ・アッシエーメくらしき」は倉敷地域、高梁川流域の地域精神保健福祉を考える市民の会です

設立総会 + 映画上映会 + アフタートーク

■：記念上映会

Rai Fiction **ciao ragazzi!**

むかしMattoの町があった

"C'ERA UNA VOLTA LA CITTA' DEI MATTI..."

■日時：6月22日（日）13時開演、17時終演

■場所：マービーふれあいセンター

さつきホール（211席）

■参加費：無料



私たちは地域の多様なみなさんと、心あるネットワークを創りたいと思います。専門家だけで囲い込まない、当事者（ピア）や家族、地域の人々の力を借り、苦勞し合い、お互いに育ち合える新たな仕組み（まちづくり）をこの倉敷エリア・高梁川流域で実現させたいと思います。

目的を明確にし、それに賛同する多様な仲間を募り、トレント市と連携し、具体的な地域づくりを協力し合えるゆるやかなネットワークをつくる。そんな集まりを私たちは「ファーレ・アッシエーメ（一緒にやろう）！くらしき」と名付け、1月から毎月設立準備会を積み重ねてきました。

様々な職種や立場を超えて、想いを同じくする仲間を募ります。みなさんのご参集をお待ちしております。事務局：NPO法人 岡山マインド「こころ」 090-4653-1150

「ファール・アッシエーメくらしき」設立総会 記念上映会

■日時：6月22日（日） 13時～15時20分

■場所：マービーふれあいセンター・さつきホール（真備町箭田） ■参加費：無料

『むかしMattoの町があった』の見どころ

対談

歴史的にはね、精神病院は『治すための装置』としてつくられていないんですよ



180人のMattoの会副代表
伊藤順一郎（精神科医）

大熊 一夫 × 伊藤 順一郎

『人類みな苦悩を背負った人』という描き方にひかれますね



180人のMattoの会代表
大熊一夫（ジャーナリスト）

私たち「バザーリア映画を自主上映する180人のMattoの会」はイタリア精神保健改革を描いた映画C'era una volta la città dei matti（むかしMattoの町があった）の上映運動を、イタリア国営放送RAIから許可されました。「Mattoの町」とは精神病院のことです。映画は、1961年にバザーリアがゴリツィア県立精神病院長に赴任するところから始まり、1978年の精神病院廃止法（180号法、別名バザーリア法）の成立で終わります。Mattoの会代表のジャーナリスト・大熊一夫と副代表の精神科医・伊藤順一郎が、映画の見どころを語ります。

Foto di Daisuke Nawa（左上）
Rukimisa Higashitani（上）
Mauro Sostini（右）

【大熊】 バザーリアや彼の仲間たちが語るIstituzioneつまり「施設」とは、ずばりマニコミオ（精神病院）のことです。そこは、自由はく奪とか、管理とか、支配とか、隷属とか、抑圧とかがレツがで溢かされたような場所。それが治療の場にふさわしくないということを、故バザーリアに代わってイタリア国営テレビが、お茶の間の国民に示した。実に21%以上もの高視聴率でした。この3時間の大作は、イタリアという国が精神病院をどう乗り越えたのかを、初めて、平易な語り口で全国民に示した。大した表現力ですね。

【伊藤】 20世紀後半から精神病をめぐる状況は大きく変わりました。ひとつは曲が

りなりに、治療とかリハビリテーションという概念が明確になったこと、そして、もう一つが、これがより大切ですが、回復にあたって医療のやれることは限られていて、生活を続け、学び、働き、人を愛し、その中で安心感や自尊心をとりもどす、そのための工夫が、何より意味があるということ、これです。成立の時点から社会防衛的な役割をもち、それを構造に取り込んできた精神病院は、この変化に対応しようがない。バザーリアが取り組んだことは、こういった。歴史的必然に根ざした変革だと思います。僕たちにとっては、今、まさに直面している課題です。

【大熊】 伊藤さんがこの映画を初めてご覧

になったのはいつですか。

【伊藤】 僕が見たのは二年前のトリエステ訪問の時です。

【大熊】 僕は2010年2月に放送された直後、ローマの知人に言われてRAIのホームページで観た。冒頭の、ヴェネツィアのバザーリア宅の風景から、メッセージが込められていますね。自宅はヴェネツィアの大運河に面した昔のドージェ（総督）の邸。そこで退廃的なパーティーが開かれていた場面は貴族の血を引く人物であることを暗示する。のちに妻となるフランカに結婚を迫って怒から運河に飛び込む場面は、バザーリアの性格を表現している。彼の言葉にある「百尺竿頭一歩をすすめよ」。現状



「ファール・アッシエーメ」とは、イタリア語で「一緒にやろう！」という意味です

支援者・当事者・家族、そして多様な市民も一緒になったゆるやかなネットワークです